

(8) 対馬地域



① 海況の特徴

対馬は、九州本土と朝鮮半島との中間に位置し、南北82km、東西18kmの細長い島で、中央部には入江に富む浅茅湾があり、その海岸線は915kmにも及びます。

海底は、東側はなだらかな傾斜、西側は急に深くなっており、海谷、海盆が多数存在します。島の周辺には岩礁が点在し、対馬暖流と大陸沿岸水が交錯し好漁場が形成されているため、イカ類、ブリ類、タイ類、ヨコワ(クロマグロの幼魚)、マアジ、サバ類等の回遊性魚類のほか、アワビ類、サザエ、ウニ類、ヒジキやカジメ類等の豊かな磯根資源に恵まれています。

② 漁業の現状

対馬近海では、いか釣り漁業を中心に、ヨコワやブリ、タチウオを主体としたひき縄漁業、タイ類をはじめ、ブリやアカアマダイ、アカムツを主体とした底はえ縄漁業、クロマグロを主体とした浮きはえ縄漁業およびアナゴがご漁業等の漁船漁業のほか、定置網漁業が盛んです。漁獲されるマアナゴやアカムツ、アカアマダイ等は生産量が多く、高級活鮮魚として取り扱われ、重要な魚種になっています。

かつて、採介藻漁業によりアワビやヒジキなどの磯根資源は4~5千tの水揚げがあっていましたが、平成20年度には2千tを下回り、沿岸の磯焼けの拡大と漁

業者の高齢化が採介藻漁業の衰退に大きく影響しています。

また、天然の入り江に恵まれた浅茅湾ではクロマグロを主体とした魚類養殖業及び真珠養殖業が盛んで、県下有数の養殖地帯となっています。しかし、真珠養殖業については、最近の景気低迷の影響を受け、厳しい状況が続いています。

このような中、平成22年3月に対馬の重要な魚種のひとつであるアマダイはえ縄漁業者が中心となって作成・公表した「長崎県対馬海域アマダイ資源回復計画」に基づき、対馬北東の一部海域において、はえ縄及び立縄漁業を対象に、休漁日の設定や使用漁具の制限等に取り組み、アマダイ資源の回復を図るなど、積極的な資源管理の取組も進められています。

③ 地域の抱える主な課題

水産資源、漁業就業者の減少により、漁獲量は年々減少しており、魚礁や増殖場の効果的な整備によって水産資源の維持増大を図り、漁家子弟やU・J・ターンの漁業就業者を確保することが必要です。

また、人口の減少で貨物を出荷できる船便が減少し、水産物の出荷に支障を来す事態が発生しているため、出荷コスト抑制対策、より付加価値の高い水産物の開発など漁業者等の取組が重要です。

さらに、養殖業については厳しい状況が続いており、販売戦略の見直しや高品質化、低コスト化によりもうかる経営体づくりが求められています。

項目	単位	H10	H15	H20
総生産量	トン	27,567	24,560	22,237
海面漁業	トン	24,453	22,404	20,411
うちいか釣り漁業	トン	10,027	9,500	5,361
うち釣り漁業	トン	4,845	3,920	4,548
うち定置網漁業	トン	2,953	2,559	3,731
海面養殖業	トン	3,114	2,156	1,826
漁業就業者数	人	3,964	3,665	3,158

(資料：農林水産統計年報、漁業センサス(農林水産省))



アマダイの選別作業

④ 課題解決に向けた取組内容 ※第4章における基本目標に対応して色分けしています。

- 漁獲量の減少 → 〈ア〉 資源増殖と沿岸環境の保全をめざす漁場づくり
- 漁業者の高齢化と後継者の減少 → 〈イ〉 漁業の将来を担う人材の確保
- 離島における流通コスト → 〈ウ〉 地産地消の推進と水産物の県外への販路拡大
- 水産加工分野における脆弱性 → 〈エ〉 付加価値の高いブランド製品の育成強化
- 養殖業の低迷 → 〈オ〉 収益性の高い養殖業の育成

〈ア〉 資源増殖と沿岸環境の保全をめざす漁場づくり

減少する漁業生産量に歯止めをかけるため、効果的に漁場整備を実施します。特に、アワビやヒジキなどの磯根資源に欠かせない藻場の減少が全島に拡大しており、引き続き、藻場の回復対策に積極的に取り組むほか、資源管理を強化するため、アマダイ資源回復計画の実行のほか、沿海でアカムツやマアナゴ、アラを漁獲している漁業者の組織化に取り組めます。

指標名	単位	H20(基準年)	H27(目標年)
海面漁業生産量	トン	20,411	20,500

〈イ〉 漁業の将来を担う人材の確保

漁船リース事業や研修事業の活用による新規就業者の確保を図ります。また、後継者対策には欠かせないもうかる経営体づくりのために、アマダイやアカムツ、ブリ、ヤリイカなど地域の特色ある高級魚を取り込んだ収益性向上の取組を支援します。

指標名	単位	H17-21累計(基準年)	H23-27累計(目標年)
新規就業者数	人	196	210

〈ウ〉 地産地消の推進と水産物の県外への販路拡大

対馬の特産であるイカ類やヒジキなどの水産加工品をはじめ、島内水産物の認知度を高めるため、地域の商工観光業や農林業、学校・病院給食等と連携し、地元への供給拡大を図り、ひいては県外を含めて販路拡大につながるよう流通体制の再構築を積極的に支援します。

指標名	単位	H20(基準年)	H27(目標年)
学校給食における地元産使用	回	2	25

〈エ〉 付加価値の高いブランド製品の育成強化

魚価の向上を図るため、対馬産水産物の高付加価値化が実現できるよう、既存のアカアマダイ、アカムツ、タチウオ、養殖クロマグロやヒジキのほか、サワラ、マサバなどのブランド化やイカ類やマアナゴ等を活用した特色ある水産加工品の商品化・販路開拓を支援します。

指標名	単位	H22(基準年)	H27(目標年)
商標登録数	品	6	9

〈オ〉 収益性の高い養殖業の育成

重要な養殖業であるマグロ養殖と真珠養殖について、販売戦略の再検討と高品質かつ低コスト化を推進するため、生産者の取組を積極的に支援します。

また、特産であるヒジキの養殖等の新たな取組についても支援を行い、養殖経営体数の減少に歯止めをかけます。

指標名	単位	H20(基準年)	H27(目標年)
養殖経営体数	経営体	116	120

長崎県のさかな 秋



サバ



ヒラメ



アゴ

◎魚の図柄はシーボルト「日本動物誌」・
「グラバー図譜」(長崎大学附属図書館所蔵)
より転写したものです。
